

信州大学知の森基金を活用したグローバル人材育成のための短期学生海外派遣プログラム
実施状況および成果(広報用)

プログラム名	オックスフォード・パーススパ大学における人文学短期研修プログラム	
学部・研究科名	人文学部	
プログラム実施期間	2018年8月27日 ～ 9月10日	
研修先(国・都市・施設名)	イギリス・オックスフォード、パース・CIE Oxford (Oxford Union, St. Peters College)、パーススパ大学	
参加者数：11名	知の森からの支援者：10名	
プログラム概要	本プログラムは、グローバル時代に対応する人文学を体現した人材を育てることを目指し、世界有数の研究機関であるオックスフォード大学を有するオックスフォード市内とローマ時代以来の都市として栄えたパースに拠点を置くパーススパ大学に於いて、人文学に特化した学習プログラムを英語で学び、最終日にその成果を英語によるプレゼンテーションによって発揮することを参加学生に求めている。参加者は全員ホームステイ先に滞在し、英国に於ける多様な人種や文化の融合のただ中に身を置き、同時に中世ヨーロッパに基盤を持ちながら最先端の学究の研究施設での短期間ながら集中的な学びを通して、密度の濃い経験値を獲得し、未来への積極的な視座を身につけることになる。	

実施状況・成果

現地校CIE Oxfordとの事前の打ち合わせにより研修プログラムを緻密に練り上げ、オックスフォード大学の現職教員を含む優秀な講師陣による「建築美術史」「社会心理学」(8月29-30日)、「知識の哲学」「ジャーナリズム」(8月31日9月3日)、「英文学」「生活のためのビジネス論」(9月5-6日)という多彩な授業内容を用意することが出来た。参加学生たちは全員、午前中、長い伝統を誇るオックスフォード・ユニオンならびにオックスフォード大学セント・ピーターズ・コレッジの施設内において、講師との英語での質疑応答形式(チュートリアル方式)による授業に出席した。午後には、講師が引率する形で、オックスフォード市内の博物館や歴史記念物を見学すると共に、各自のプレゼンテーションに関する打ち合わせ等が英語にて行われ、学生たちは自分の足と目を使って資料を探し、各々の調査を行った。

9月4日(火)には、パーススパ大学で国際交流センターの学生アンバサダーとの交流を持ち、パーススパ大学での人文学の授業について見学やレクチャー受講、質疑応答などを行った。これは人文学部との学部間協定の一環として学生間の交流を図る目的で今年度から実施された。さらにパース市内にある、ローマ時代の浴場遺跡博物館ローマン・パースを見学。研修参加者は、古代のローマ人に扮した役者たちの語る英語の解説を直に聞くなど、博物館の中に陳列された古代から中世にいたる時代の奥深さを体験できた。

プログラム最終日には、随員の伊藤教員、野津教員の立ち会いの下、学生全員が各自15分を超える英語でのプレゼンテーションを行い、英国人教員などからの質疑に応じた。パワーポイントなどを有効に活用しながら堂々と発表する姿に引率教員自身感銘を受けたが、彼らのプレゼンテーションは、日本を含むアジア諸国からの多くの学生を見てきた現地の講師陣からも、今年度は特に信州大学人文学部生のレベルの高さが激賞された。

それまでも、オックスフォード大学の学生と大学院生との交流会を設けたり、オックスフォード大学生の余暇であるパンティングの体験も行った。時間の流れが日本とは違うと研修生はロク々に感銘を述べていた。授業のない週末には、伊藤教員の随行によりロンドンへの一日往復旅行を敢行した。英国鉄道にはつきものの列車のキャンセル、大英博物館、リージェント・パーク王室公園、シャーロック・ホームズ博物館、ハリー・ポッターの93/4番プラットフォームの見学など、日本とは異なる文化を経験でき、現地研修の醍醐味を味わった。

学生の声①—人文学部 学生

2週間というすごく短い間でしたが、たくさんの発見があった貴重な経験が出来た留学でした。授業はあまり日本では知ることの出来ない古代の建築の部位の名称を教えていただいたり、イギリスの文学について英語で考えたりと、濃い授業がたくさんで毎日の授業が楽しみでした。また、午後のproject workでは自分でテーマを選んだのですが、調べていくうちにどんどん面白くなっていて、2週間では足りないな、もっとじっくり調べてみたい！と思うほどでした。1人の人の生涯について興味を持ったのが初めてだったので、新たな自分に出会ったようでした。このオックスフォード研修に来よう、と決めるまで、一生日本から出ないつもりでした。海外の国についてあまり興味がなかったし、英語も苦手だったためです。しかし、一歩出してみると、想像以上に楽しくて、もう一度行きたい！と思っています。

学生の声②—人文学部 学生

Oxfordは「共存」の街だと私は思います。瞳の色、肌の色、言葉、信じるものが異なる人々が、当たり前のように同じバスに乗り、同じパブでビールを飲みます。何百年もの歴史を持つ建物と、モダンな建物が同じ時間を過ごしています。このように、人も物も考え方も、色々なものが「共存」している街だと感じました。私が最も印象に残っている出来事は、バスに乗り間違えて迷子になったことです。バスが思っていたところに行かず、怖くなって運転手さんに聞いてみると、「行き先が違う」と言われました。途方に暮れましたが、彼は私を近くまで送ってくれました。さらに見ず知らずの人が家まで案内してくれたり、「Good luck!」と声をかけてくれたりしました。この迷子体験はとても怖かったけど、とても大切なことだったと思います。困った時、自分からヘルプを求めることができたこと。人の優しさに触れられたこと。この経験はきっとこれから生きていく上で役立つと思います。この研修に参加して、私はとても良かったです。迷った末に決断した自分をほめてあげたいです。

ロンドン日帰り旅行でシャーロック・ホームズの銅像と



協定校バス・スパ大学研修にて

